



報道関係者 各位

NPO法人 放送批評懇談会

発表！2025 年 12 月度ギャラクシー賞月間賞

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで 63 年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2026 年 6 月上旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963 年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。放送の専門誌・月刊「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CM を顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

<お問い合わせ先> NPO法人 放送批評懇談会

MAIL : kondankai@houkon.jp HP : <https://www.houkon.jp/>





2025 年 12 月度ギャラクシー賞月間賞

テレメンタリー2025「万博“成功”の陰で～置き去りにされた未払い問題～」

12 月 6 日放送 朝日放送テレビ

マルタ、セルビア、ドイツ等々いくつもの海外パビリオンで発覚した建設費未払い問題。大手ゼネコンがトラブルを予見し敬遠するなかで、大阪府・市、万博協会が関西の中小建設業者に強く要請した事情が、この不首尾につながったことに言及。海外企業の無責任ぶりもさりながら、この件を傍観するだけの万博協会の冷酷さに憤然とする。

大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」

1 月 5 日～12 月 14 日放送 日本放送協会

エンタメ王として蔦重を描き切った森下佳子の脚本が素晴らしかった。吉原を「なかったこと」にせず、そこからいかに江戸の文化が花開いていったかを正面から描いたところに、制作陣の決意と覚悟を見た。終盤のフィクションならではの奇想天外な展開も、史実を踏まえていなさそうできっちり回収していった手際も、見事と言うほかない。

日曜ドラマ「ぼくたちん家」

10 月 12 日～12 月 14 日放送 日本テレビ放送網 日テレアックスオン アバンズゲート

基本的にほのぼのとしたラブコメディだが、その中に生きづらさを抱えた人たちがケアし合いながら生きる姿と社会的な課題が溶け込んで描かれていた。新人・松本優紀が書く何気ない会話劇の中に光るセリフがあり、何度も泣かされる。キャスト陣も好演し、それぞれの「恋と革命」を実践した、優しく、祈りに満ちたドラマだった。

ドラマプレミア 23「シナントロープ」

10 月 6 日～12 月 22 日放送 テレビ東京 P.I.C.S. アスミック・エース

見事な構成と洗練された映像と若い俳優たちの演技に見惚れてしまった。こういう、新しいドラマを創ろうというクリエイターの意志とセンスがテレビを救い、若い視聴者をテレビに呼び戻すのではないだろうか。水上恒司は新境地を拓いたし、染谷将太の風格すら感じさせる存在感、脇を固める個性豊かな俳優たちも魅力的で目が離せなかった。

★詳細は月刊誌「GALAC」2026 年 3 月号に掲載します